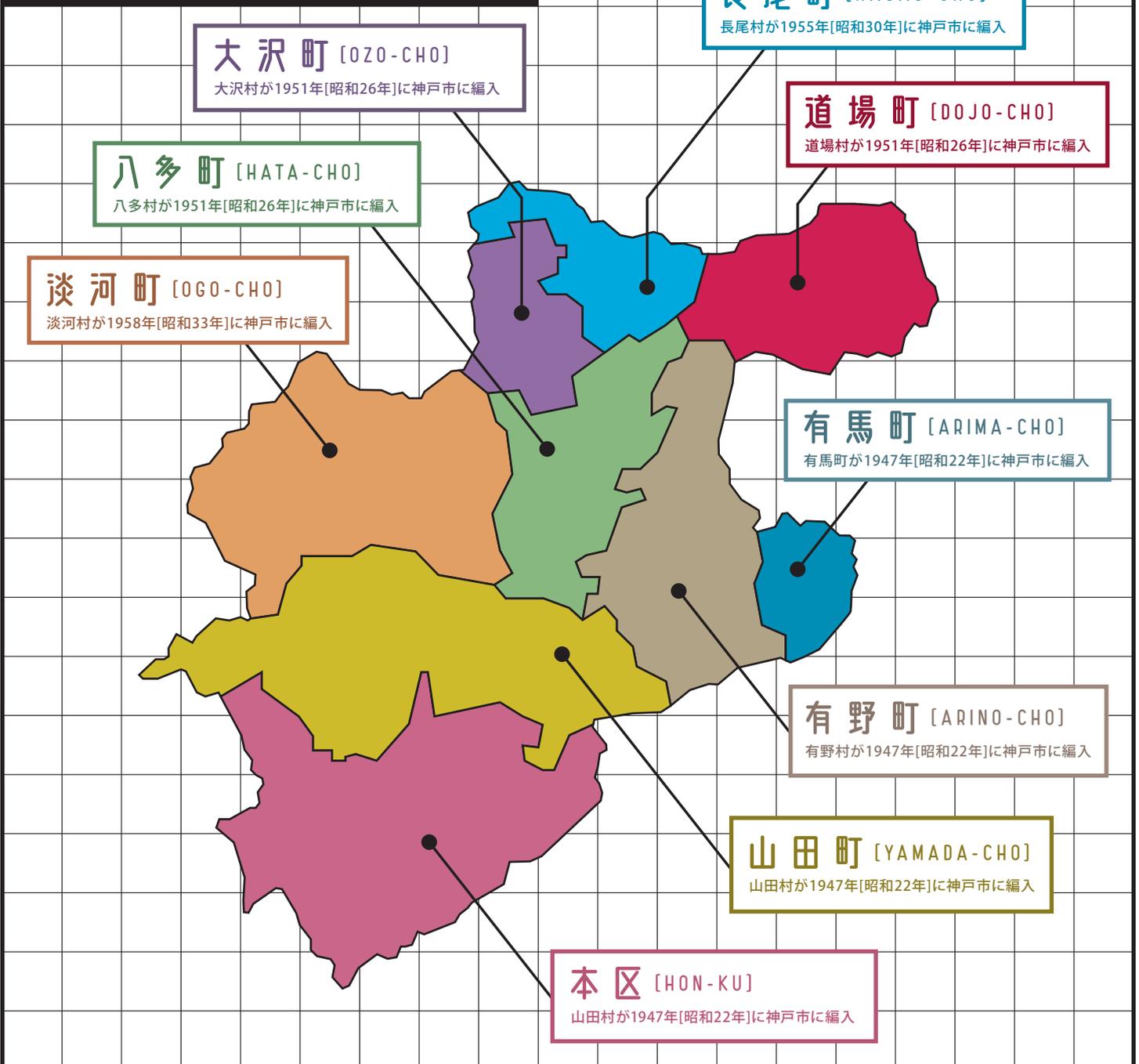
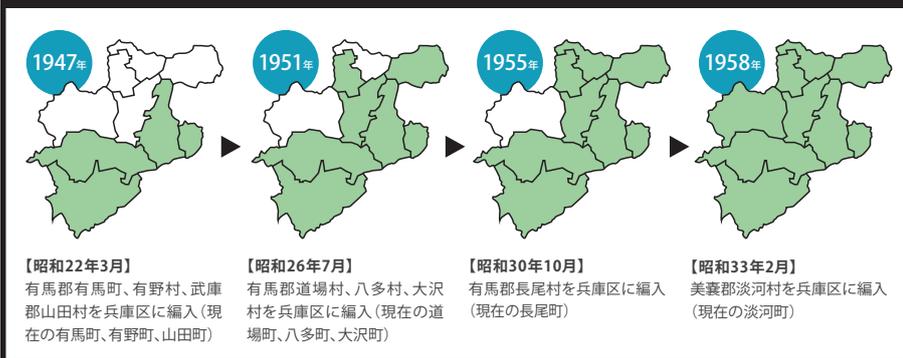


北区の成り立ちを辿る歴史と懐かしい風景

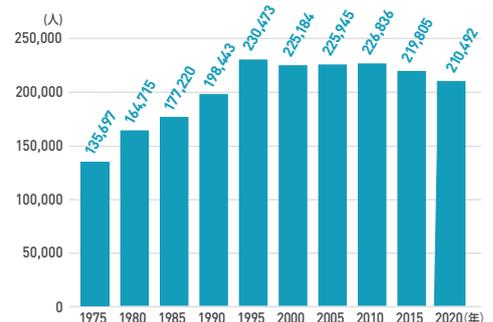


区域の変遷



北区総人口の推移

（国勢調査各年10月1日時点）





本区 [HON-KU]



鈴蘭台から始まった北区南部エリアの中心地

北区の南部、鈴蘭台を中心とした地域は神戸市全域から見るとほぼ中央に位置し、北区の中では「本区」と呼ばれています。鈴蘭台エリアは、北区が誕生するよりもずっと昔、1928年(昭和3年)に神戸有馬電気鉄道(現在の神戸電鉄)の開通にあわせて整備が始まりました。

1950年代後半から1960年代にかけて、鈴蘭台駅周辺の住宅団地開発とともに、甲栄台・若葉台などの北鈴蘭台駅周辺、北五葉・南五葉・君影町・星和台などの西鈴蘭台駅周辺、緑町・広陵町・筑紫が丘などの山の街駅周辺が次々と開発され、大規模な住宅団地が形成されました。

本区には基幹行政施設や商業施設のほか、「しあわせの村」、「森林植物園」、「あいな里山公園」などの自然を活かした施設が設置されています。また、2018年には鈴蘭台駅前の再開発がすすみ、駅直結型の商業施設(ベルスト鈴蘭台)のビルの中に、北区役所が移転しました。

今後も新北区文化センター・図書館・児童館などの新施設の建設や区画整理事業などが計画されており、ますますの発展が期待されています。



昭和40年代前半頃の鈴蘭台駅前



鈴蘭台駅前



山田町 [YAMADA-CHO]



千年の歴史を有する伝統と自然のまち

山田町は、南は六甲山系、北は帝釈・丹生山系に挟まれた谷筋にある山田川(志染川)流域に開けた地域です。千年以上昔から京都から西に向かう主要な街道として栄えたといわれており、六條八幡神社の神宮寺である「三重塔」、無動寺の境内にある「若王子神社」、現存する民家建造物の中では日本最古といわれる「箱木家住宅(箱木千年家)」と国指定重要文化財が3つ残っています。六條八幡神社では、市内で唯一「流鏝馬(やぶさめ)神事」が今も続けられています。

1960年代後半から、東部の神戸電鉄沿線における住宅団地の開発、「新神戸トンネル」、「阪神高速北神戸線」、「北神急行」などの交通網の整備により発展。西部は今でも自然豊かな農村地域が残っており、2020年には衝原湖の湖畔に「BE KOBE」モニュメントの設置、2023年から「神戸登山プロジェクト」による登山道の整備など、シェアサイクルやトレイルなど、自然環境を活かしたアウトドア事業の推進に力を入れています。



1901年 明治34年 山田村役場



六條八幡神社の流鏝馬

有馬町 [ARIMA-CHO]

太閤秀吉が愛した温泉の名所

有馬町は、太閤秀吉がこよなく愛した温泉地として全国的に有名な有馬温泉を中心とした地域です。歴史の深い有馬町には、「温泉寺」「極楽寺」「念仏寺」「湯泉神社」「稻荷神社」などの由緒ある寺社が現存しており、温泉寺と善福寺の彫刻や湯泉神社の絵画は、国の重要文化財に指定されています。また、1月の「入初式」、11月の「有馬大茶会」などの伝統行事も行われています。

観光スポットとしては、太閤秀吉にまつわる「ねね橋」や「太閤の湯殿館」、三大公園といわれる「瑞宝寺公園」「鼓ヶ滝公園」「愛宕山公園」、日本三名泉・日本三古泉の有馬温泉を楽しめる日帰り温泉「金の湯」「銀の湯」、「有馬の工房」などがあり、四季を通じて数多くの観光客で賑わっています。



昭和初期 有馬豊泉



有馬本温泉 金の湯

有野町 [ARINO-CHO]

行政・商業施設が集まる北神地域の拠点

有野町は、南から大池、唐櫃、有野、二郎へと有野川流域に沿って開けた地域です。昭和3年の神有鉄道(現在の神戸電鉄)の開通により、急速に人の往来が増え、都市文化が浸透しました。その後、東大池、唐櫃台、有野台、藤原台、北神星和台などの大規模な住宅団地が開発されました。北区北部の中心地として、岡場に行政施設や商業施設などが集積しており、令和元年度には市内初の同一区に二つ目の区役所として北神区役所が開設され、北神図書館やこべっこあそびひろばが整備されています。

一方で、伝統ある仏閣や神社が各地に現存しており、摂津国有馬郡の一の宮であった「有間神社」をはじめ、二郎の「大歳神社」、平清盛ゆかりの「多聞寺」などが有名です。また、農業では、大正時代から生産が始まったと言われる二郎地区のイチゴ栽培が有名で、1月～6月頃までイチゴ狩りと沿道直売が行われています。



1988年 昭和63年 北区二郎いちご狩り



北神区役所



道場町 [DOJO-CHO]

歴史と豊かな自然が共存するまち

道場町は、古くから栄えてきた歴史と伝統のあるまちです。町内各所からは古代の土器や遺構が発見され、多くの人々が居住していたと推測されます。また、松原城址（通称：たんぼぼ城）や「塩田八幡宮」、「鎬射寺」などの伝統ある寺社、「鎌倉峡」や「百丈岩」などの自然の景勝地なども多く、江戸時代には生瀬から三田を通る大坂街道と、淡河からの湯乃山街道が合流する宿場町として賑わいました。

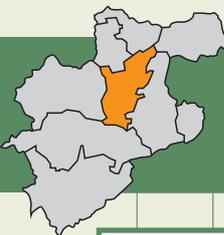
町内の「千苅ダム（千苅貯水池）」は、1919年（大正8年）に竣工した市内最大のダムです。1998年（平成10年）に文化庁の登録有形文化財、経済産業省の近代産業遺産に登録されており、北区北部の給水を担っています。



1932年 昭和7年 月見橋渡り初め式



千苅ダム



八多町 [HATA-CHO]

広域道路網の拠点となる都市近郊農業のまち

八多町は、南・西・北の三方を山に囲まれ、八多川・屏風川沿いを中心に、灘五郷の酒米どころ、米作り本位の農村として発展してきた地域です。現在では、中国道と山陽道、新名神が交わる神戸ジャンクション、山陽道と六甲北有料が交わる神戸北インターチェンジができたことで広域的な道路網の拠点となり、都市近郊の農村地域に姿を変えています。

1994年に市内唯一の茅葺屋根の地域福祉センターとして整備された「八多ふれあいセンター」は、町民の憩いの場として利用されています。

2023年4月には、北区では初となる義務教育学校「八多学園」が開設され、外国語やICTを学ぶ「グローバル・コミュニケーション力の育成」、農業や歴史を学ぶ「豊かな地域資源を活かした探求学習」など、特色ある学校づくりに取り組まれています。



1973年 昭和48年 八多の農村風景



八多ふれあいセンター



大沢町 [OZO-CHO]



四季を感じられる農業のまち

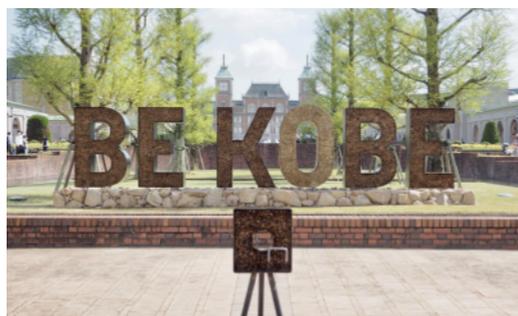
大沢町は、加古川水系の大沢川、武庫川水系の善入川が流れ、両河川の分水嶺となっています。その川沿いに広がる平坦部を中心にのどかな田園風景が広がり、高台にある光山寺からの景観は、「神戸らしい眺望10選」にも選ばれています。

町内最大の集客施設「神戸フルーツ・フラワーパーク大沢(1993年オープン)」が2017年に市内2か所目の「道の駅」として生まれ変わり、2023年には市内4か所目の「BE KOBE」モニュメントが完成しました。

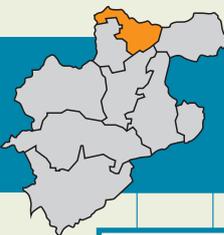
また、四季を通じて旬の食材が手に入る直売所や食堂が併設された「FARM CIRCUS」は地産地消を楽しむ施設として連日多くの人で賑っています。



1913年 大正2年 田植え風景



道の駅 神戸フルーツ・フラワーパーク大沢 BE KOBE



長尾町 [NAGAO-CHO]



田園と住宅地が調和する歴史あるまち

長尾町は、神戸市の最北部に位置する小高い丘に囲まれたのどかな田園地域と丘陵地帯に開発された住宅団地と産業団地が混在する地域で、弥生時代から人々が居住していたと考えられています。町内の文化財としては、「多聞寺」にある仏像3体が国の重要文化財に指定され、「熊野神社の獅子舞」も伝統神楽として伝承されています。また、2019年に地域の古民家を再生した「ふれあいの里 おくっちょ」がオープンし、地域の交流拠点・憩いの場として町内外からの利用者が集っています。

一方、神戸リサーチパークとして開発されてきた3団地(鹿の子台・上津台・赤松台)は、人口定着、企業立地が進んでおり、特に、上津台のイオンモール神戸北、神戸・三田プレミアムアウトレットは、多くの人を訪れるエリアとなっています。



1946年 昭和21年 太陽と緑の道



ふれあいの里 おくっちょ



淡河町 [OGO-CHO]



古き良き日本の風景が残るまち

淡河町は、南に丹生・帝釈山系を望み、町の中央を淡河川が東西に流れ、その流域に平地が広がっている地域です。江戸時代には湯乃山街道の宿場町として栄え、奈良・京都との文化交流もあったと伝えられるとおり、町内には石峯寺にある「薬師堂」や「三重塔」、「南僧尾観音堂」、淡河八幡神社の「御弓神事」などの貴重な文化財や伝統行事が数多く残されています。農業では、食用米・酒米とともに、「新鉄砲ゆり」や「チューリップ」などの花の栽培も盛んです。

2003年には政令市では初となる「道の駅」がオープン（その後、2019年にリニューアル）、2017年には北区初の里づくりの拠点施設「淡河宿本陣跡」がオープンし、地域の農産物や農村での暮らしを知る拠点となっています。



1987年 昭和62年 石峯寺(しゃくぶじ)周辺の風景



淡河八幡神社の御弓神事



1960年 昭和35年 有馬温泉会館竣工



国鉄道場駅



1974年 昭和49年 旧川原村通り



1974年 昭和49年 上谷上農村歌舞伎